

今年の4月、私は初めて長崎の爆心地周辺を訪れ、平和公園にある「平和の母子の像」と爆心地公園にある「母子像」にとっても衝撃を受けた。「平和の母子の像」では、たくさんのお母さんと小さな子供と母が苦しみながらお互いに手を取り合おうとしており、原爆による苦しみと人々の足掻きを感じられた。また、「母子像」では、手に抱きかかえた小さな子供を悲しい目で見つめながらも、子供を守ろうとする母の緊張感が感じられた。どちらの像からも子供を守ろうとする強い母の力に引き込まれ、当時の女性や子供の生きようとする思いに衝撃が走った。

長崎に来る前は、地元である関東で平和教育を受けたことがあっても、実際の原爆の影響を身体で感じる経験が無かった。まるで、長崎の爆心地に引き寄せられたかのように原爆の影響を親身に感じた。私は長崎の地で女性と子供の健康を学ぶ中、この課題について取り組む必要があると思う。そして、核兵器、当事者の思いなどを現地で学び、当時の被害者、現在から将来の女性や子供の健康について考えていく。

まず、核兵器の物理的被害や社会に動きを見ていく。2021年1月に発効した核兵器禁止条約（TPNW）では、電離放射線による女性や女子に長期的な健康被害が起こることを記載している。特に、女性や女兒の方が、男性や男児よりも、電離放射線による被害が大きい可能性がある。よって、無差別な核兵器の被害には、ジェンダー格差もあることが考えられる。また、多量の電離放射線を受けた人のがん発症のリスクが大きく増加する。さらに、多量の電離放射線を受けた女性の子供は、小頭症や精神遅延のリスクが大きく増加する。よって、原爆は次世代の子供の健康にも大きな影響を及ぼす。

次に、原爆による、当時の女性の社会的な側面を見ていく。

まず、原爆による多量の電離放射線を浴びることにより、がんなどの疾病の発症の他に、脱毛や、身体に大きな傷を生じさせる。例えば、治すことができない大きな顔の傷は、周囲から見られる恥ずかしさや被ばくによる差別を受けないように、厚化粧で隠す必要がある。しかし、結婚する際に、パートナーや親族から、原爆による身体の傷を強く批判されることがある。

さらに、多量の電離放射線を浴びることにより、妊娠しても流産になってしまい、不妊の原因になる可能性もある。よって、女性は、妊娠しても無事に育つのか、出産できても子供を健康に育てることができるのか、生涯にわたって大きな不安を抱く。

また、戦争によって子供や夫を亡くした女性の数はとても多いと考えられる。夫と子供の成長を見守ることができない感情により、生きている間、ずっと苦しんでいる多く女性がいる。

よって、原爆の被害を受けた女性は、結婚、妊娠、出産、子育ての大きなライフプランにおいて影響を受けている。原爆による身体的な影響が、生活、精神など、いろんなところに広がり、次世代の子供にまで影響するのだ。そして、被害者の女性が持つ苦しみは、

一人ひとり異なり、様々な思いがある。核兵器の知識や影響を学ぶだけでなく、当事者の話を聞くことで、苦しい生活の背景を想像できる。

そして、私たちは、原爆の被害者の体験や思いを理解することはできないと思う。なぜなら、当事者の環境によって原爆に対する多様な思いがあるからだ。また、原爆による苦しみは想像を絶するほどであると思うからだ。よって、私たちは、原爆の情報や当事者の話などを理解しようとするのではなく、当時の状況を想像し、今の自分はどうするべきかを考え続けることが必要である。考え続けるために、また新しい情報や話などを学びに行くことを繰り返すことが必要であると考えます。

以上から、核兵器によって多くの人々の命を奪ったが、特に女性や子供に視点を当てると、生涯にわたって幅広い影響を生じさせている。核兵器の被害は、電離放射線による身体的被害の他に、他者からの差別や偏見、家族や大切な人々の喪失などによって、社会の中で人としての尊厳が損なわれることが多くある。また、将来の子供たちへと健康被害やそれに伴う社会での苦痛を生じさせることから、永遠と消えることのない苦しみが残る。そして、地球上では、核兵器により多くの命が一瞬で消えてしまい、その後も自分らしく生きる人間のパワーが損なわれていくことが分かった。核兵器により物理的に地球への被害は生じているが、私たちが心身健康に生きていくことも地球の健康にもつながる。よって、地球を守るためには、核兵器を使用しないだけでなく、完全に無くすことが必要だ。そのためには、核兵器による人への健康や生活の影響に目を向け、2度も生じた広島や長崎での原爆の被害を現地で深く学び、幅広い想像して、2度と酷い苦しみを生じさせないために、今の自分にできることを考え続けることが大切である。そして、私は、一人の地球に生きる人間、また助産師として、すべての人々の健康と生活、特に女性や子供に寄り添って生涯守ると決意をし、核兵器のない世界を目指したい。また、私は、世界中にある残された原爆による苦しみへと生涯を通して寄り添い続けていきたい。